宮崎大学教育文化学部紀要　芸術・保健体育・家政・技術　第23号（2010）1－8頁

欧米における日本の画史・画論の受容について（二）
―― 米国調査報告を中心に ――

石川 千佳子

The Acceptance of Traditional Japanese Art Theories in Europe and America (2)
―― A Report on Research in the Boston Museum of Fine Arts and the Freer & Arthur M. Sackler Gallery ――

Chikako ISHIKAWA

はじめに

前稿[1]では、2008年9月の英国調査報告を行い、それに関連してアンダーソンの主著“The Pictorial Arts of Japan”を、欧米における画史・画論の受容という観点から再読してみた。その結果、アンダーソンの著作と並び、欧米における日本美術の入門書として重要な役割を果たしてきたモリソン著“The Painters of Japan”の精読が課題として浮上した。しかし、その作業は未だ途上であるため、まず2009年９月16日～21日に実施した米国調査の報告を行うことにする。

本調査は、ボストン美術館（ボストン）とフリーア＆サックラー美術館（ワシントンDC）で行われた。主たる目的は、米国最大級の日本美術コレクションを持つ両美術館の附属図書館に所蔵されている日本の画史・画論を特定すること、米国における日本の画史・画論の収蔵状況や研究に関する情報を得ることであった。

１．ボストン美術館所蔵の画史・画論について

ボストン美術館の日本美術関連文献は、本館の学芸資料室と美術館附属図書館の双方に収蔵されている。まず本館内の学芸資料室所蔵文献を閲覧した後、本館から徒歩10分ほど位置にある美術館附属図書館に移って調査を続けた。同美術館と関わりの深いフェノロサの文献コレクションが、現在ハーバード大学の所蔵であるため、画史・画論の類は学芸資料室内に残されていないとのことだったが、今回の調査では、大岡春卜による下記の四書を確認することができた。

一方、美術館附属図書館には画史・画論の類は全く所蔵されていなかった。かわりに、19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米で出版された日本美術関連文献を閲覧することができたので、それらの書名等を列挙しておく。

(1) ボストン美術館学芸資料室所蔵の画史・画論

ボストン美術館(本館)で実際に内容を確認した画史・画論は次の四書である。そのうち二つについては、記録によりモースコレクションに含まれていたことが分かったが、他の二つの来歴は不明である。収蔵庫には、この他にも未整理の画史・画論が存在する可能性がある。

① 『和漢名画苑』大岡春卜　寛延三(1750)　全6冊
② 『画巧潜覧』大岡春卜　元文五(1740)　全6冊
③ 『画史会要』大岡春卜　寛延四(1701)　全6冊
④ 『和漢名筆　絵本手鑑』大岡春卜　享保庚子(1720)　全1冊…中身は六巻に分かれる

＊網かけはボストン及びフリーア両美術館で共通して所蔵されている文献

(2) ボストン美術館附属図書館蔵の19世紀末～20世紀初頭の日本美術関連文献

ボストン美術館附属図書館で確認できた19世紀末～20世紀初頭の日本美術関わる欧文文献は、以下の12タイトルである。その他、ボストン美術館報*Museum of Fine Arts Bulletin*に掲載された岡倉天心等の論文を閲覧することができた。膨大な美術館報や展覧会のパンフレット等のなかには、未整理のものがあるということである。

① *Exhibition of Japanese paintings in water color*, Boston Art Club, 1900
…出品者として以下の名前がみえる。Hiroshi Yoshida, Hachiro Nakagawa, Shinzo Kawai, Takeshiro Kanokogi, Kunishiro Mitsutani, Banka Maruyama

② E. Fenollosa, *Catalogue of a Representative Collection of Japanese Color Prints*, Imperial Fine Arts Commissioner, The Property of Mrs. Ernest F. Fenollosa of Cambridge, Mass. …鳥居清宜、広重、国貞、鳥居清長等の浮世絵目録。うち清長が33点と最多数である。

③ W. Anderson, *The Pictorial Art of Japan*, Houghton, Mifflin and co. (Boston and N.Y.), 1896 …1巻本ではなく大型4巻本であり、米国で出版されている。復刻版か。

④ C. Nett und G. Wagner, *Japanischer Humor*, F. A. Brockhaus(Leipzig), 1901
…ドイツ語文献。戯画のコレクション目録。

⑤ J. Conder, F.R.I.B.A, *Landscape Gardening in Japan*, hakubunsya (Tokyo), 1893
…博文社か。大型図版2巻本。日本庭園史及び作庭論。

⑥ Felix Regamey, Translated by M. French-Sheldon and Eli Lemon, *Japan in Art and Industry — with a Glance at Japanese Manners and Customs*, G.P. Putnam's Sons (N.Y. London), 1893 …仏語文献の英訳本で、日本の美術工芸に関する素材技法書。絵画についてはGraphic Arts の章で扱われる。

⑦ Yamanaka & co. *A Brief History of the Glyptic Art and Architecture of Japan — together with A Brief Description of Temples and Shrines*, Yamanaka & co. (N.Y. Boston, London, Osaka, Japan), 1892 …表紙に「日本彫刻誌」とある。推古朝～江戸期の日本美術史概説書。

⑧ C. Dressers, *Japan : Its Architecture, Art and Art manufactures*, Longmans, Green, and co.(N.Y. London), 1882 …第1巻は京都、東京など都市別に、それぞれの名所について記述されている。第2巻は日本美術の総論である。

⑨ Captain F. Brinkley, *Japan Its History Arts and Literature*, J. B. Millet co.

(Boston, Tokyo) 1902　…552年～現代までの日本美術と文学の概説書。そのうち７巻第１章（1 - 68頁）がJapan Pictorial Artであり、浮世絵ばかりでなく諸派を網羅した概論になっている。

⑩ Bunkio Matsuki, *Art of old Japan Rare Specimens of Pewter*, the American Art Association, Mnagers (N.Y.), 1904　…錫器の骨董目録。

⑪ B. H. Chamberlain, *Things Japanese being Notes on Various subjects connected with Japan for the use of Travelers and others*, Kegan Paul, Trench, Trubner & co. Ltd (London), 1891　…旅行案内書。

⑫ L. Binyon, *Painting in the Far East*, Second Edition, Longmans, Green and co. (N.Y.), 1913　…中国と日本の美術史概説書。日本の絵画では狩野派と浮世絵を中心に解説している。

２．フリーア&サックラー美術館附属図書館蔵の画史・画論について

フリーア＆サックラー美術館図書館では、以下の十三書の画史･画論等の内容を確認することができた。また関連して、現在米国で普及、もしくは現在でも参照されている日本美術史の概説書の紹介を依頼し、閲覧することができた７タイトルについて付記しておく。

(1) フリーア&サックラー美術館附属図書館蔵の画史・画論

① 『絵本常盤草』西川祐信　芸艸堂（京都）　1900年代
…１冊。初版本＝享保十六（1731）の再版本。物語のヒロインや歌人から遊女まで、女性に関する画題を集めた絵本。墨摺り。序文に「土佐光信」の名がみえる。

② 『畫筌』魯軒林守篤　1700年代…巻三「鳥獣」のみ有り。墨摺り。

③ 『畫則』秋山櫻井氏桂月　須原屋伊八（東都）　安永五（1776）
…全５巻、６冊組（巻４が上・下に分かれる）。「一、畫則本文（同巻のみ、中央がペーパーナイフで切られている）」の後、巻四までは様々な画法の例、画題別の図例等が続き、巻五が作者別の縮図。図例のほとんどに、鉛筆による英語のメモがみえる。また「＄25 (Sesshiu)　Kobayashi Setsushu Oct/1901」と鉛筆書きされた紙の帯が入っていた。

④ 『繪本直指寶』橘守国　澁川清右衛門（大坂）　延享二（1745）
…10冊組で虫喰い有り。画題別に図例を示す絵手本。序文は、『歴代名画記』と『林泉高致』を強く意識した内容である。

⑤ 『運筆麁畫』橘守国　秋田屋太右ェ門（大坂）　寛延元（1748）
…上・中・下の３巻を合本。絵手本で、始めに運筆五行の象を論じた後、画題別に図例を示す。墨摺り。

⑥ 『繪本通宝誌』橘守国　澁川清右衛門（大坂）　享保十四（1729）
…10冊組。表紙に落書きがあり傷みが激しい。九つの画題別（五の人物図が上・下二冊）に図例を示す。

⑦ 『和漢名畫苑』大岡春卜　大野木市兵（大坂）　寛延三（1750）
…全六巻だが一～三巻を１冊、四～六巻を１冊の計２冊に合本。流派別に絵師の名と作例の図を示す。（一、漢流之部：19名・二、土佐流之部：14名・三、雪舟受家之部＝14名・

四、古法眼之部＝13名・五、探幽流之部＝15名・六、雑諸流之部＝16名）全ての図に、鉛筆による英語のメモがみえる。

⑧ 『和漢名筆　絵本手鑑』大岡春卜　文熙堂（浪速）　享保庚子（1720）

…６冊組。墨摺りで一部手彩色。「初」で六法・三病・八格を解説した後、二巻「漢画」、三～五巻「倭画」の図例が続く。六巻は「補遺」で、宗達・光琳は掲載されている。図例のほとんどに、鉛筆による英語のメモがみえる。また「Kobayashi Shunboku ＄10 Oct. 1901」と鉛筆書きされた紙の帯が入っていた。

⑨ 『麁畫便覧』大岡春卜　大野木市兵（浪華）　宝暦十一（1761）

…３冊組。墨摺り。日本の絵師の図例を示した絵手本。（上、古法眼～道安：８名・中、稚楽助～雪信：11名・下、正甫～友樗：６名と鳥羽絵）

⑩ 『畫巧潜覧』大岡春卜　敦賀屋九兵衛（大坂）　元文五（1740）

…全六巻のうち、二・三・五・六の４巻（五・六は合本）３冊を所蔵する。（巻二、筆格：十項目の筆法を見開きの右面に理論、左面に図の形で解説する。巻三、花鳥山水　探幽寫粉本・巻五、和漢地紋　画家新舊眞偽雑記・巻六、印譜）

⑪ 『名家畫譜』丹羽桃渓　東壁堂（尾張）　文化甲戌（1814）

…２冊組で部分多色摺り。日本の絵師の図例を示す。（天の部＝62名、人の部76名）

⑫ 『寫本樓畫本』谷文兆　和泉屋庄次郎（江戸）　文化十四（1817）

…１冊。多色摺りによる没骨の絵手本で、序文に「傳西畫意則」とある。

⑬ 『本朝畫纂』谷文兆　1830年代

…１冊。序文無し。名画の縮図帖で、図と共に詳細な寸法と絵師の短い伝記、及び印が記載された事典的な体裁をもつ。裏表紙に森林蔵の墨書あり。

＊網かけはボストン及びフリーア両美術館で共通して所蔵されている文献

付記：現在米国で普及している、もしくは現在でも参照されている日本美術史の概説書

① W. Anderson, *The Pictorial Art of Japan*, S. Low, Marston, Searle & Rivington (London), 1896

② A. Morrison, *The Painters of Japan*, T. C. & E. C. Jack (London), 1911

③ B. Stewart, *Subjects portrayed in Japanese Colour-Prints*, Kegan Paul, Trench, Trubher (London), 1922　…大型本で、木版浮世絵の肖像目録。

④ R. T. Paine & A. Soper, *The Art and Architecture of Japan*, Penguin Books (Baltimore), 1955　…文化史年代別に章立てられた日本美術史概説。

⑤ H. Musterberg, *The Arts of Japan An Illustrated History*, Charles E. Tuttle (Rutland, Vermont, Tokyo), 1957　…先史から近代日本美術までを概観するペーパーバック版の日本美術史。

⑥ J. Hiller, *The Art of the Japanese Book*, Sotheby's Publications (London), 1987

…２巻本。桃山～明治までの日本の絵本史で、浮世絵が中心だが他の画派も扱う。

⑦ P. Mason, *History of Japanese Art*, Harry N. Abrams (N.Y), 1993

…年代区分が詳細な日本美術史概説書。

3．米国調査の小括

フェノロサとフリーアという、米国における日本美術の大コレクターにして研究者に縁の深い美術館での調査を通して、二つの特色がみえてきた。第一に所蔵されている版本類は絵手本の色彩が強いこと、第二に大岡春卜の存在感である。これらは本研究の課題、すなわち欧米における日本の画史・画論の受容という観点からすると、どのような意味を持っているだろうか。

・絵手本としての画史・画論

まず、第一の特色については、2008年度の英国調査の結果から予想されていたことだった。

本研究の前提として、現在でいう絵画史や美術批評に関する、何らかの言及がなされた著作を画史・画論と称しているが、それらの中には、もともと論よりも絵が主体である絵本類が少なくない。周知のように、江戸後期に流布した冊子形態の出版物には、高度な木版技法を駆使した挿絵が多く含まれる。鈴木重三氏によれば、それらの絵画を伴う版本は、大別すると、絵が文章と直接連携するものと、絵画として独立・鑑賞させる意識で編纂されたものに分かれ、前者を挿絵本、後者を絵本と呼び分ける人もいる[2]ということだ。さらに絵本には、絵手本的な性格をもち特定画派の画風を広めるためのもの、今日の個人画集のように本格的な絵師の画譜、配り物的な性格の強い風雅な絵入狂歌本等の種類があるという。[3]

その分類に従うと、両美術館附属図書館で内容の確認できた版本類は絵本であり、特定の画派というよりは、総花的に漢画や倭画の名作を紹介し、画題や筆法について解説する絵手本の性格が強いものばかりであった。おそらく、それらの多くは、当時人気の高かった浮世絵の絵本と一緒に収集され、論の部分は読まれることなく絵が鑑賞されたのだろう。あるいは、和漢の絵画の名品目録や、画題等を参照する日本美術事典として、収集や分類のための実用的な役割を果たしていたと考えられる。それを裏づけるのが、今回の調査でフリーア美術館図書館蔵の『画則』、『和漢名画苑』、『和漢名筆　絵本手鑑』の３書に発見された、鉛筆による詳細な書き込みである。（写真1）　筆跡の主については、同館古文書室長のD. ホッジ氏に判断を仰いだところ、フリーア自身の筆跡ではないが、それらの版本類がフリーア本人の所蔵品と考えられることから、彼の周辺にいた人物ではないかとの示唆を受けた。書き込みの内容をみると、画題や筆法について丹念に英訳されており、彼の美術品の収集に関わった日本人の手で書かれた可能性もあると思われる。[4] いずれにせよ、画面の枠外とはいえ、紙面に直接鉛筆書きされているので、絵そのものが鑑賞されるというよりも、それらは実用的な参考書として使用されていたと推測される。さらに書き込みが画題や筆法の説明であることから、単に作者名の音読みを知るといった域を出て、絵の内容を理解しようとする意図が見て取れる。少なくともフリーアのように研究熱心なコレクターであれば、それらを絵本として眺めるばかりでなく、画論として読んでもいたのだろう。

・大岡春卜の存在感

次に、第二の特色であるが、前章の文献リストで明らかなように、ボストン美術館学芸資料室所蔵の版本は四書全てが大岡春卜の著書であり、フリーア＆サックラー美術館図書館所蔵の版本でも、十三書中四つが同著者のものである。しかも、後者が所蔵する春卜著の『和漢名画苑』と『和漢名筆　絵本手鑑』には、先述のとおり詳細な書き込みが認められる。明らかに、ただ収集されたのではなく参照されていたようだ。

大岡春卜は、江戸中期から後期にかけて活躍した大阪出身の絵師である。独学で狩野派の画

風を習得し、享保年間には法眼位を得たと伝えられる。しかし、彼は、実制作以上に絵手本画家として後世に名高い。古画備考にも、両図書館が所蔵している『絵本手鑑』をはじめ、六つの絵手本の書名が認められる。その解説をみると、『和漢名画苑』と『画史会要』については「以爲二学者之楷式一」[5]とあることから、画史・画論書として評価されていたことが窺われる。

また、W. アンダーソンによる“The Pictorial Art of Japan”において、これも両図書館で所蔵している『畫巧潜覧』の画の品評や鑑定に関する個所が、美術批評について述べた第4編第9章に長く引用されていることは前稿で指摘した通りである。[6]

とすれば、春卜の著書は、絵本の出版が盛んだった江戸後期には絵事に関心のある人々の間でよく読まれ、ひいては日本美術に関心を持つ欧米のコレクターや研究者においても、漢画を含む日本絵画史と絵画理論を併せて知ることができる指南書として収集され、読み継がれていったのではないだろうか。

近年、大岡春卜については、朝鮮通信使との関わりや伊藤若冲への影響など、新たな視点から光が当てられている。特に、若冲画と春卜の画譜の関係について論じた新江京子氏は、春卜の画譜が若冲のみならず曽我蕭白や池大雅等、多くの絵師たちの教科書的な役割を果たしたことを指摘する。さらに新江氏は、春卜の絵手本の図柄ばかりでなく、彼の画論が若冲に与えた影響に言及するなかで、太田孝彦氏の先行研究を引用しながら『絵本手鑑』の絵画観に注目し、粉本のみによらず実物の観察を重視する作画態度が是認されていたことを示唆する。[7]

伊藤若冲や曽我蕭白が、いち早く米国において作品の価値を認められ収集された絵師であったことを考えると、両美術館附属図書館に収蔵された大岡春卜の版本は、いっそう存在感を増してくる。しかも、一方で粉本を示しながら実物写生を是認する在りようを、伝統的な筆法と写生の双方を踏まえることだと解釈すれば、アンダーソンがほとんど全文を引用した本居宣長の画論の主旨や、アンダーソン自身の日本絵画における写生の問題という関心事にも繋がる。今後、A. モリソンによる“The Painters of Japan”の精読と並行して、さらなる欧米の調査を進めるにあたり、大岡春卜の画史・画論の働きにいっそう注意を払う必要がありそうだ。

結びにかえて―補足と課題―

まず、小括で論じきれなかった問題について、簡単に二点ほど補足しておきたい。

一つ目は、先の1及び2章でリストを示した、両美術館附属図書館所蔵の欧文文献に関することである。内容に注目してみると、19世紀末～20世紀初頭の著作では、明らかに興味の対象が浮世絵に集中している。次いで仏教美術と工芸品である。それらに対して1950年代以後のものは、わが国の日本美術概説書とほぼ同じ構成を持っているが、浮世絵が重視される傾向は踏襲されているように思われた。

二つ目は、フリーアによる日本美術コレクションの変化についてである。彼は、1900年前後に多量の浮世絵版画を手放して、肉筆のものしか遺さなかった。その理由は経済的な問題だったと伝えられるが、真意は謎とされている。[8] あえて本研究に引きつけていうならば、その背景には日本美術のfine artsにあたる絵画だけを遺そうとするような、コレクションの主旨の変化が潜んでいるのかもしれないし、とすればなおのこと印刷物である版本類も鑑賞対象ではなかったと考えられる。

次に、本調査から派生した課題であるが、これは前章の末尾にも示したように、両美術館附

属図書館で得られた情報にもとづいて、欧米の美術館や大学図書館における画史・画論の収蔵状況のさらなる調査を進めていくことである。[9] 並行して、懸案の“The Painters of Japan”を中心に英文の日本美術史概説書の内容を検討し、それらのなかで画史・画論がどのように受容され、欧米における日本美術史観の形成過程にどのような影響を与えたのかということについて、可能な限り明らかにしていきたい。

註

1） 石川千佳子「欧米における日本の画史・画論の受容について（一）―W. アンダーソン著“The Pictorial Arts of Japan”を中心に」宮崎大学教育文化学部紀要　芸術・保健体育・家政・技術科学第22号　2010年　19-26頁

2） 鈴木重三『絵本と浮世絵』美術出版社　昭和54年(1979)　252頁

3） 鈴木　同上書　261頁
なお、世界美術辞典(新潮社)では江戸後期の絵本の種類として、絵解本、図会、狂歌絵本、画譜を挙げている。また、絵本の代表的な作者について、国史大辞典では、菱川師宣、西川祐信、喜多川歌麿、葛飾北斎等の浮世絵師の他に、橘守国、大岡春卜、英一蝶、尾形光琳、宋紫石、渡辺崋山の名を載せている。

4） この筆跡の主に関しては、フリーアの周辺にいたスターンやフェノロサ、日本人では古筆了任等の可能性を示唆されたが、決め手はなく、現在も不明のままである。

5） 朝岡興禎『古画備考』　思文閣出版　千六十七 - 千六十八頁　昭和45年(1970)

6） 石川　前掲論文　21及び23頁

7） 新江京子「若冲画と大岡春卜の画譜　―版本学習と「物に即する」画の考察―」『美術史』第161号　平成18年(2006)　95頁

8） T. Lawton, Linda Merrill, Freer. A Legacy of Art, the Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution (Washington, D.C.) 1993, p.134

9） 例えば、米国及びカナダで日本の画史・画論がまとまって所蔵されている可能性があると紹介された研究機関は、以下の通りである。
ハーバード大学図書館(フェノロサコレクション)
カリフォルニア大学バークレー校附属図書館
コロンビア大学附属図書館
メトロポリタン美術館図書館
ロイヤルオンタリオ美術館(トロント)

［謝辞］
本調査に当たっては、ボストン美術館の神田房枝氏、Paul McAlpine氏、フリーア＆サックラー美術館の吉村玲子氏 、David Hogge氏に、ご高配とご教示を賜った。また、国際文化会館の林理恵氏には、多大なご助力をいただいた。さらに、ケンブリッジ大学の小山騰氏には2008年の英国調査時と本調査の企画に関して、ご高配と助言を賜った。ここに深く感謝の意を表します。

(写真１)
大岡春卜『和漢名画苑』巻一　十六丁裏及び十七丁表
フリーア＆サックラー美術館附属図書館蔵

撮影：David Hogge氏